

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

# 外注化を絶対に許さない 信じ難い無責任—これこそ本質

## 7/14 JR 大井車両基地で感電死亡事故

7月14日、JR東海の大井車両基地（東京都品川区）で作業員が感電し、意識不明になり病院へ搬送。その後、亡くなった。

基地にある発電機室で6人の作業員が電気系統の設備点検をしていた際に感電し、着ていた服が燃えていた。

6月21日、幕張車両センターで労災死亡事故が発生しました。JR・CTSがコストと要員の削減、外注化を徹底して進めたことの必然的な結果です。すべての責任はJR・CTSにあります。

### 「知らなかった」とまるで他人事

しかし、事故をうけての団体交渉では、「さらに外注化されていたことを、自分たちは知らなかった」「自分たちは、ちゃんとした会社を外注化した」とまるで他人事。あまりにも不誠実で無責任です。

「実際に作業しているのが、どの会社の人間なのかもわからない」

“安全教育が必要な車両基地での作業に初めて来たスキマバイトまで使う”

“鉄道業務がこんな無責任に扱われていいはずがありません。”

### —これこそ外注化の本質

この信じがたい無責任体制こそ、外注化の本質です。その結果、現場で働く労働者が犠牲にされたのです。

外注化とその無責任体制が蔓延すれば、鉄道の安全が破壊されるのは当然です。すでにJR東では東北新幹線をはじめ深刻な事故が繰り返されています。7月14日も、JR東海・大井車両基地で感電死亡事故が発生しています。

しかし、JR東は来年4月から機能保全を含めた検修業務の全面外注化に踏み出そうとしています。さらに、「業務融合化」と称して鉄道の各系統の専門性を解体して、「何でも屋」にする攻撃を進めています。JR・グループ会社の仲間全体を「スキマバイト」のように扱おうというのです。

### 闘う労働組合の力を取り戻そう

こんなことを進めれば、どんなひどい事故が起きるか分かりません。労働者の権利も安全もないがしろにされます。鉄道業務の外注化は絶対に許してはなりません。

必要なのは、声をあげ、闘いにたち、団結した力で会社に強制することです。職場に闘う労働組合の力を取り戻そう。